

耕うん、は種に向けたほ場の排水対策

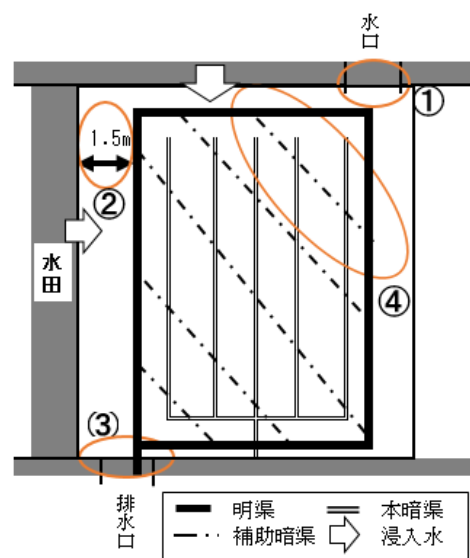
- 早生品種の移植準備のため、4月下旬から代かき作業が始まっています。隣接する大豆ほ場では、水田からの浸水が多くなる懸念があります。
- 更に4月は平年より気温が低くかつ降水量が多く推移しているため、ほ場の乾田化が遅れています。
- 水田に隣接する側や地表に水が残っているほ場は、**水口を閉め、かつ排水口を開放し、**下記によりほ場の地表水を除去しましょう。

1 地表水の早期排除と周辺からの浸入水の防止(周囲明渠の施工)

- 隣接する水田に水が入る前に実施する。
- 水口は確実に止水し、排水口を必ず開放する (①)。
- 隣接水田や、用水路から浸入水があるほ場は、畦畔から最大 1.5m ほど離して施工する (②)。
- 周囲明渠は排水口と確実に接続する (③)。

2 乾田化促進(補助暗渠の施工)

- ほ場を十分に乾かした状態で施工する。
- 本暗渠に交差するよう施工し(深さは 30 cm)、明渠につなげる (④)。
- 施工間隔は 2~5m とし、排水性の悪いほ場では間隔を狭くする。



3 土づくり・基肥の施用と目安

初期生育確保のため、土づくりと基肥を確実に施用しましょう。

土壌の pH が低いと、養分吸収や根粒菌の働きが悪くなります。土壌 pH が 6.0~6.5 となるように石灰を散布しましょう。

(kg /10a)

	施用分量	資材名	施用量
窒素	1.5~2.5	えちご上越 大豆肥料	20~30
磷酸	6.0~8.0		
加里	6.0~8.0		
pH	目標値 : 6.0~6.5	OM-28	800~100

問合せ先：上越農業普及指導センター普及課作物担当 TEL 025(526)9406